

第79期 報告書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで



SHINKO

新光電気工業株式会社

株主の皆様へ

このたび代表取締役社長に就任いたしました清水でございます。株主の皆様には、平素より当社事業運営にひとかたならぬご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、第79期報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

パソコン、スマートフォン、デジタル家電、そしてエレクトロニクス化が進む自動車など、半導体は、人々のより快適で、安心・安全な暮らしを支え、豊かに彩るエレクトロニクス製品の頭脳としてさらに用途を広げ、今後、半導体産業は中長期的に成長を持続することが見込まれます。

一方で、高集積化・高速化等の技術革新および絶えず創出される市場ニーズに対し、低コストかつ迅速に対応し得る開発・生産体制を構築することを要するなど、世界規模での競争がさらに激化することが予想されます。

当社グループは、このような産業にあって、半導体実装を主軸とした要素技術の開発・強化に努め、優れた競争力を有する商品の市場投入を強力に推進するとともに、徹底した現場主義に基づき、「ものづくり」の革新に注力することにより、強固な企業基盤の確立をはかってまいります。

さらに、当社グループの企業理念・指針「SHINKO Way」の実践を通じ、市場において必要とされる企業であることはもとより、社会において必要とされる企業であり続けるべく事業を展開してまいります。

■ 平成25年度の事業概況

円安・株価上昇、緩やかな景気回復基調 競争激化・価格低下等により厳しい状況が継続

当期の経済環境は、日本におきましては、政府・日銀による経済対策、金融政策等を背景に円安・株価上昇が進むとともに、企業収益の改善や個人消費の持ち直しが見られるなど、景気は緩やかな回復基調が継続しました。海外では、アジア諸国において経済成長の鈍化傾向が続いたものの、米国においては、堅調な雇用情勢、個人消費等を背景に景気回復傾向が続きました。

半導体業界につきましては、スマートフォン向け等の需要は好調を維持し、また、エレクトロニクス化の進む自動車向けに需要が増加した一方で、パソコン、デジタル家電市場低迷の影響に加え、スマートフォン等における低価格品の浸透や企業間競争の激化等を背景として製品価格の低下圧力がさらに強まるなど、引き続き厳しい状況のまま推移しました。

期後半にパソコン需要低迷の影響を大きく受ける ニーズに対応した供給体制強化等により増収増益

このような環境下において、当社グループにおきましては、期後半に主力のフリップチップタイプパッケージがパソコン需要低迷の影響を大きく受けましたが、スマートフォン、自動車向けをはじめとして、ニーズに対応した供給体制の強化や積極的な受注活動を展開したことなどにより、リードフレーム、ガラス端子、セラミック静電チャックならびに

アセンブリ事業においてカメラモジュール組立等の売上が増加し、当期の連結売上高は1,404億12百万円（対前期比10.4%増）となりました。収益面につきましては、生産革新活動を基軸とする合理化・効率化、経費削減の取り組みを継続し、また、為替相場が円安基調で推移したことなどにより、連結ベースの経常利益は145億1百万円（対前期比187.2%増）、当期純利益は93億9百万円（同223.9%増）となりました。

単独決算につきましては、売上高1,323億2百万円（対前期比9.5%増）、経常利益132億80百万円（同165.2%増）、当期純利益84億35百万円（同186.6%増）を計上いたしました。なお、当期の配当につきましては、普通配当10円に特別配当5円を加えて期末配当金を15円とし、中間配当金の10円とあわせて年間25円とさせていただきます。

■ 今後の見通し

スマートフォン等向けの成長、パソコン需要の停滞 高品質・低価格化へのニーズが一層強まる

今後の半導体業界は、成長が続くスマートフォン、タブレット端末向けや、カーエレクトロニクス化のさらなる進展等に伴う需要増加が見込まれる一方で、パソコン需要の停滞傾向が継続するとともに、スマートフォンにおいても低価格品の浸透が進むなど、市場構造の変化や高品質かつ低価格化へのニーズが一層強まり、企業間の競争が激化する厳しい事業環境が続くものと想定されます。

新製品等の量産体制整備、事業環境の変化に対応 強靱な企業体質を構築

当社グループといたしましては、主力のフリップチップタイプパッケージの次世代製品対応・拡販等を目的として、高丘工場（長野県中野市）新工場の整備・稼働を順次展開するとともに、スマートフォン等向けにプラスチックBGA基板、IC組立の新製品やリードフレームの量産体制を整備するなど、事業環境の変化に対応すべく、生産体制の強化に取り組んでまいります。また、成長が見込まれる市場における新商品の事業化をはかるため、マーケティング機能、新商品開発機能等の充実に努めてまいります。

さらに、「限りなき発展」を目指し、生産革新活動による生産性向上への取り組みを進化・発展させ、市場・環境の変化に即応できる強靱な企業体質の構築に努めてまいる所存であります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年6月



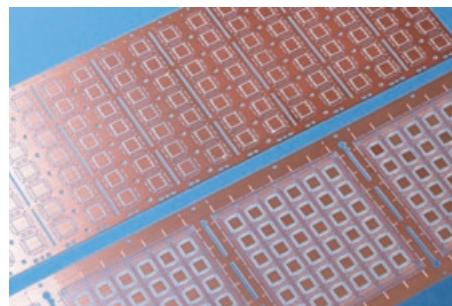
代表取締役社長

清水満晴

部門別の状況

■ ICリードフレーム部門

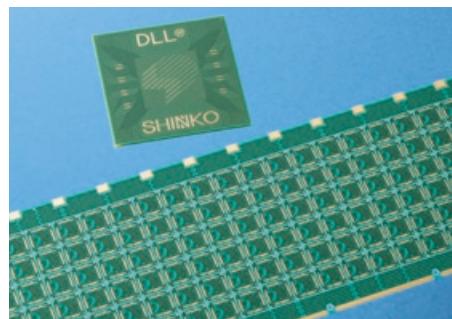
プレスリードフレームは、パソコン、デジタル家電市場不振による影響を受けましたが、車載向けが堅調に推移しました。エッチングタイプリードフレームは、スマートフォンやタブレット端末向け等にQFN（クワッド・フラット・ノンリード）タイプの需要がさらに拡大し、増収となりました。この結果、当部門の売上高は263億97百万円（対前期比10.3%増）となりました。



QFNタイプリードフレーム

■ ICパッケージ部門

フリップチップタイプパッケージは、サーバー向けや民生機器向けの需要等は増加したものの、パソコン市場低迷の影響を受けたことなどにより、売上が伸び悩みました。一方、プラスチックBGA（ボール・グリッド・アレイ）基板は、スマートフォンのメモリー向けを中心に堅調に推移しました。また、アセンブリ事業において、カメラモジュール組立の需要が増加し、MPU向けのヒートスプレッダーについても売上増となりました。この結果、当部門の売上高は933億29百万円（対前期比7.4%増）となりました。



フリップチップタイプパッケージ（上）
プラスチックBGA基板（下）

■ 気密部品部門

光素子用ガラス端子は民生機器向けなどに需要が拡大し、前期比増収となりました。また、センサー用ガラス端子は車載向け等が堅調に推移し、半導体製造装置用のセラミック静電チャックについても売上が増加しました。この結果、当部門の売上高は203億40百万円（対前期比24.2%増）となりました。



センサー用ガラス端子

光素子用ガラス端子

部門別売上高構成

その他

3億44百万円 (0.2%)

気密部品部門

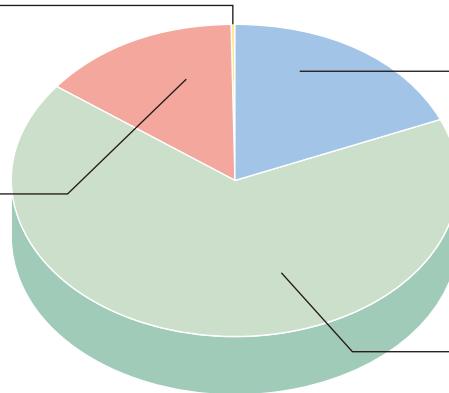
203億40百万円 (14.5%)

ICリードフレーム部門

263億97百万円 (18.8%)

ICパッケージ部門

933億29百万円 (66.5%)



※ () 内の数字は構成比率を表わしております。

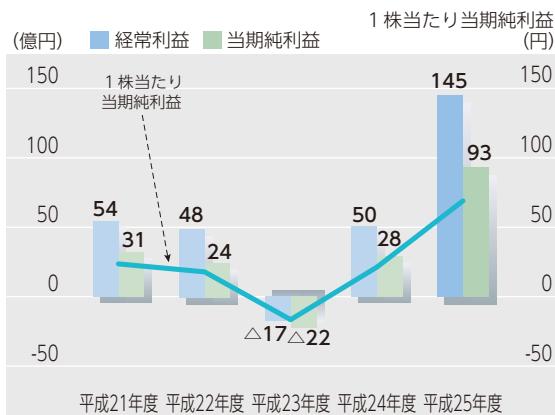
業績の推移

〔連結〕

■ 売上高



■ 経常利益 / 当期純利益



■ 総資産 / 純資産



■ 設備投資

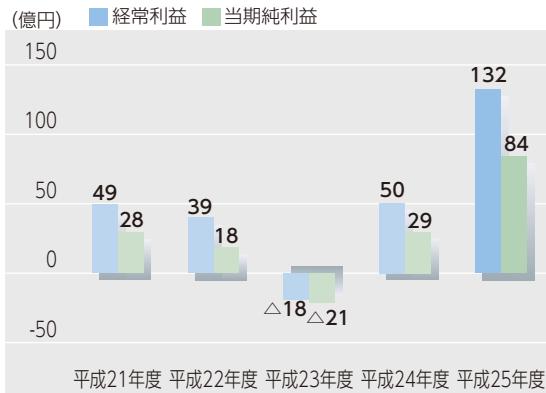


〔単独〕

■ 売上高



■ 経常利益/当期純利益



■ 営業成績および財産の状況の推移

区分	年度	平成21年度 〔第75期〕	平成22年度 〔第76期〕	平成23年度 〔第77期〕	平成24年度 〔第78期〕	平成25年度 〔第79期(当期)〕
〔連結〕						
売上高 (百万円)		129,836	140,923	125,825	127,241	140,412
経常利益 (百万円)		5,432	4,828	△ 1,758	5,049	14,501
当期純利益 (百万円)		3,188	2,404	△ 2,242	2,874	9,309
1株当たり当期純利益		23円60銭	17円80銭	△ 16円60銭	21円28銭	68円91銭
総資産 (百万円)		173,690	171,921	166,686	170,966	176,651
純資産 (百万円)		135,420	135,198	130,048	131,206	133,536
1株当たり純資産		1,002円45銭	1,000円80銭	962円68銭	971円25銭	988円50銭
設備投資 (百万円)		12,340	25,683	14,771	16,596	22,508
研究開発費 (百万円)		4,019	4,081	4,544	4,231	4,218

〔単独〕

売上高 (百万円)	125,232	135,161	120,438	120,867	132,302
経常利益 (百万円)	4,915	3,984	△ 1,895	5,008	13,280
当期純利益 (百万円)	2,877	1,846	△ 2,165	2,943	8,435

決算概要 (連結)

■ 連結貸借対照表

平成26年3月31日現在

(単位：百万円)

科目	当期	前期	科目	当期	前期
資産の部	176,651	170,966	負債の部	43,115	39,760
流動資産	101,721	98,933	流動負債	34,377	35,043
現金及び預金	16,413	11,467	買掛金	18,073	18,486
受取手形及び売掛金	32,789	35,751	短期借入金	600	600
有価証券	1,060	970	その他	15,704	15,957
商品及び製品	3,283	2,354	固定負債	8,737	4,716
仕掛品	4,249	3,677	純資産の部	133,536	131,206
原材料及び貯蔵品	1,427	1,384	株主資本	139,888	133,280
預け金	38,680	38,500	資本金	24,223	24,223
その他	3,827	4,837	資本剰余金	24,129	24,129
貸倒引当金	△ 10	△ 9	利益剰余金	91,627	85,020
固定資産	74,929	72,033	自己株式	△ 92	△ 92
有形固定資産	69,613	66,124	その他の包括利益累計額	△ 6,351	△ 2,074
無形固定資産	1,012	915	その他有価証券評価差額金	49	27
投資その他の資産	4,304	4,994	為替換算調整勘定	△ 1,449	△ 2,101
			退職給付に係る調整累計額	△ 4,951	—
資産合計	176,651	170,966	負債純資産合計	176,651	170,966

■ 連結損益計算書

平成25年4月1日～平成26年3月31日

(単位:百万円)

科目	当期	前期
売上高	140,412	127,241
売上原価	118,428	111,594
売上総利益	21,983	15,646
販売費及び一般管理費	12,668	12,633
営業利益	9,315	3,012
営業外収益	5,214	2,055
営業外費用	28	18
経常利益	14,501	5,049
特別損失	486	428
税金等調整前当期純利益	14,014	4,621
法人税、住民税及び事業税	3,120	395
法人税等調整額	1,584	1,351
当期純利益	9,309	2,874

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

平成25年4月1日～平成26年3月31日

(単位:百万円)

科目	当期	前期
営業活動によるキャッシュ・フロー	27,762	19,279
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 20,795	△ 17,785
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,740	△ 2,736
現金及び現金同等物に係る換算差額	584	959
現金及び現金同等物の増減額	4,810	△ 283
現金及び現金同等物の期首残高	50,213	50,496
現金及び現金同等物の期末残高	55,023	50,213

■ 連結株主資本等変動計算書

平成25年4月1日～平成26年3月31日

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	24,223	24,129	85,020	△ 92	133,280	27	△ 2,101	—	△ 2,074	131,206
当期変動額										
剰余金の配当			△ 2,701		△ 2,701					△ 2,701
当期純利益			9,309		9,309					9,309
自己株式の処分		△ 0		0	0					0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						22	651	△ 4,951	△ 4,277	△ 4,277
当期変動額合計	—	△ 0	6,607	0	6,607	22	651	△ 4,951	△ 4,277	2,330
当期末残高	24,223	24,129	91,627	△ 92	139,888	49	△ 1,449	△ 4,951	△ 6,351	133,536

「生産革新活動」開始10年を迎えて

当社では、製造業において競争力の源泉となる「ものづくり」の強化をはかるため、平成15年より生産革新活動を展開しています。製品の開発、設計から生産、出荷に至る「ものづくり」のすべての段階において革新をはかり、環境の変化や市場の変動に柔軟に対応するとともに、日本国内での「ものづくり」を継続することを目的として、この活動は開始されました。



動線を短縮した光子用ガラス端子の組立ライン

活動開始から10年が経過し、それぞれの製造現場ではトヨタ生産方式（T P S）に基づく改善が積み重ねられ、新たな製造ラインには活動の成果を結集した工夫が取り入れられています。

今後も、高い生産性をもって、高品質の製品を作りこみ、常にさらなる改善と進化を目指す製造現場の構築に努めてまいります。

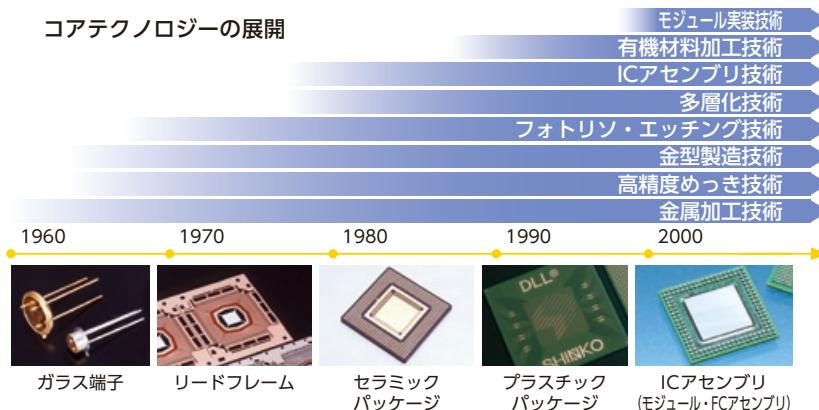
コアテクノロジーの源泉と系譜

昭和21年、家庭用電球の再生事業からスタートした当社は、昭和30年代半ば、トランジスタ用ガラス端子の製造を機に半導体分野に本格的に参入しました。

これらの事業によって培われた金属加工、高精度めっき等の技術は、コアテクノロジーとして受け継がれ、多様なニーズに対応し、さまざまな半導体パッケージに展開されてまいりました。

さらに当社の半導体実装のコアテクノロジーは、最先端の高機能IC用のプラスチックパッケージや、高性能ICのアセンブリ事業等へと展開され、次世代のエレクトロニクス機器に用途を広げています。

コアテクノロジーの展開



会社の概要

Corporate Outline

(平成26年3月31日現在)

- 商号 新光電気工業株式会社
- 設立年月日 昭和21年9月12日
- 本社 長野県長野市小島田町80番地
電話 (026) 283-1000 [代表]
- 主な事業内容 リードフレーム、プラスチック・ラミネート・パッケージ、ガラス端子などの製造・販売、ICアセンブリ
- 従業員数 4,165名 (連結4,950名)
- 工場等 更北、若穂、高丘、新井、京ヶ瀬、新光開発センター、栗田総合センター
- 営業所等 東京、大阪、仙台、長野、名古屋、大分、福岡、フランクフルト、マニラ
- 子会社 新光パーツ株式会社
新光テクノサーブ株式会社
SHINKO ELECTRONICS (MALAYSIA) SDN. BHD.
KOREA SHINKO MICROELECTRONICS CO., LTD.
SHINKO ELECTRIC INDUSTRIES (WUXI) CO., LTD.
SHINKO ELECTRIC AMERICA, INC.
KOREA SHINKO TRADING CO., LTD.
TAIWAN SHINKO ELECTRONICS CO., LTD.
SHANGHAI SHINKO TRADING LTD.
SHINKO ELECTRONICS (SINGAPORE) PTE. LTD.

株式の状況

Shareholders' Data

(平成26年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 540,000,000株
- 発行済株式の総数 135,171,942株
- 資本金 24,223,020,480円
- 株主数 18,204名
- 大株主

株主名	所有株式数 (千株)	出資比率 (%)
富士通株式会社	67,587	50.00
ザ・バンク・オブ・ニューヨーク・ ジャスディック・トリーティー・アカウント	4,369	3.23
ザ・バンク・オブ・ニューヨーク 133522	4,088	3.02
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	2,233	1.65
株式会社八十二銀行	1,836	1.36
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,570	1.16
新光電気工業株式会社従業員持株会	1,079	0.80
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	1,071	0.79
エバークリール	1,061	0.79
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	998	0.74

取締役および監査役

(平成26年6月26日現在)

取締役副会長	藤本 明
代表取締役社長	清水 満 晴
取締役副社長執行役員	豊木 則 行
取締役専務執行役員	依田 稔 久
取締役常務執行役員	浅野 義 博
取締役上席執行役員	長谷部 浩
取締役相談役	黒岩 護
常勤監査役	小川 喜 彦
監査役	北澤 光 二
監査役	安井 三 也

執行役員

(平成26年6月26日現在)

常務執行役員	今井 邦彦	執行役員	有賀 広志
上席執行役員	井口 和治	執行役員	小林 純一
上席執行役員	三井 精造	執行役員	平林 利康
上席執行役員	荻原 俊彦	執行役員	南沢 克夫
上席執行役員	清野 貴博	執行役員	高柳 秀則
上席執行役員	菊地 貴人	執行役員	大日方 政史
		執行役員	小平 正司
		執行役員	永田 欣司
		執行役員	伊藤 明彦
		執行役員	田口 哲夫
		執行役員	小澤 隆史
		執行役員	倉嶋 進

株式事務のご案内

■株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関

(連絡先)

〒100-8212
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-7111 (通話料無料)

■事業年度

4月1日から翌年3月31日まで

■基準日

定時株主総会関係
配当金受領株主確定日

3月31日
3月31日および中間配当金の支払いを行う
ときは9月30日

■公告方法

電子公告
当社は、公告を下記ホームページに掲載して
おります。

<http://www.shinko.co.jp/ir/kk/>

ただし、事故その他やむを得ない事由によっ
て電子公告による公告をすることができない
場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、買取請求その他の各種
お手続きにつきましては、口座を開設されている口座管理機関（証券
会社等）にお問い合わせください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、
三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記の連
絡先にお問い合わせください。三菱UFJ信託銀行全国各支店におい
てもお取り扱いいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払
いたします。



新光電気工業株式会社

〒381-2287 長野県長野市小島田町 80 番地
電話(026)283-1000【代表】FAX(026)284-8861
<http://www.shinko.co.jp>



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



地球環境に配慮した植物油
インキを使用しています